

# 問われる飼い主のモラル



宮城県動物愛護センターで飼育している犬（ジュニア）。子犬の頃に飼い主から引き取った。県動物愛護センターのふれあい教室などで活躍している。

ペットは家族一。犬や猫などのペットを飼う人たちには当たり前といえる考え方です。家族の一員であれば、人間社会の一員といえます。人間社会で暮らすには、ルールやマナーを守らなければなりません。ペットと地域の皆さんが快適に暮らせるかは、飼い主のモラルにかかっています。

県の譲渡事業を利用した理由を聞きました

譲渡事業を利用することも選択肢に入れてほしい



及川美智子さん（中田町神畑）  
愛猫ゆず（雄）生後8カ月

飼う前に家族で相談しました  
大切に育てていきます

愛犬が死んでしまい、家族みんなが癒やしを求めています。ゆずは、石巻保健所から譲り受けました。保護した犬猫の譲渡事業を知っていたので、1匹でも幸せにできればと申し込みました。

犬であれば、散歩が必要になります。仕事や学校などで時間が取れず、以前散歩をしてくれた両親も体力的に厳しかったので猫にしました。

ゆずは、障子を破ったり、かんだりします。しつけていますが、なかなかうまく行きません。それでも、あきらめずに他人に迷惑をかけるような、責任を持ってしつけ、大切に育てていきます。



太田淳子さん（迫町本田）  
愛犬もこクン（雄）生後13カ月

これから犬猫を飼う人は、センターから譲り受けることも選択肢に入れてほしいですね。

譲渡事業を利用しましたが、この事業を知らない人は多いのではないのでしょうか。保護された犬猫は、飼い主が見つからなければ処分されていくだけ。小さな行動かも知れませんが、今後、この譲渡事業のことを口コミで広めていきたいと思っています。

13年間飼っていた愛犬が病気で死んでしまった後、もこクンを県動物愛護センターから譲り受けました。犬が欲しかったこと、小さな命を1つでも救えればと、譲渡事業に申し込みました。

## 動物の健康管理について 獣医師に聞きました



宮城県獣医師会  
仙北支部  
支部長 日下勝彦さん

ペットの病気への対策をすることも大切  
昔と比べ、飼い主の意識が変わり、「ペットは家族の一員」と考えられるようになりました。フィラリア症など、病気を予防する人も増えました。フィラリア症は、猫よりも犬に多く見られ、最悪死亡する病気。薬を投与することで予防できますが、まだまだ少ないのが現状です。

犬は7歳前後、猫は10歳前後から高齢期といわれています。健康チェックはそれまで以上に気を配り、定期的に健康診断を受けたり餌を変えたり、年齢に合った暮らしを考えてあげましょう。

ペットも家族の一員。わが子のように、ペットがかかる恐れのある病気を調べ、予防することも、命を預かる責任だと思えます。

## しつけの必要性について 訓練士に聞きました



ドッグスクール  
マツモト（大崎市）  
訓練士 松本章さん

イベントを通じて  
命の大切さを伝えたい  
犬を飼う以上、その行動には飼い主に全責任があります。犬は言葉が分からないので、しつけには時間を要します。なるべく時間を多くとり、犬が理解できるようにコミュニケーションをとることが重要です。

「うちの犬は何もできない」とよく聞きますが、しつけなければできないのです。方法は当然です。方法が分からない人は、専門家への相談をお勧めします。ペットを飼うのは大変ですが、それ以上の癒やしや楽しみを与えてくれます。私たち訓練士、獣医や行政など、動物に関わる人が、しつけ教室やふれあい教室などを通じて、直接参加者に命の大切さを伝えることで、不幸な命を減らしたいと考えています。

## 売る側の責任について 経営者に聞きました



シルトクレーテ  
（迫町大網西）  
オーナー 亀川正敏さん

飼い主と犬が幸せに  
暮らせるよう支援

カニヘンダックスを専門に扱っており、繁殖から販売まで一貫して経営しています。犬のトリミングもしています。

犬は、私たちの生活に身近な存在であり、人と一緒に行動できる動物です。

私の経営理念は、「飼い主と犬が将来幸せに暮らせるよう支援すること」

お渡しするまでに、ある程度ですが、無駄吠えなどをしないようしつけています。また、飼う前後の相談にも応じています。自分が育てた犬が手放されると悲しいですからね。

販売者は、売ったら終わりではありません。販売後もサポートすること、販売者の責任だと思えます。

## 公園でのマナーについて 市管理部署に聞きました



産業経済部商業観光課  
主事 佐々木英寿さん

誰もが気持ち良く思う  
公園づくりに協力を

当課は、長沼フットピア公園を管理しています。公園は、オランダ風車やローラーすべり台などを整備。週末はたくさん家族連れでにぎわいます。

利用者の中には、犬や猫を連れて訪れる人もいます。敷地が広いのでペットも十分楽しめると思います。しかし、残念なことにふんがそのまま放置

されているのをたびたび見かけます。看板などで注意を呼びかけていますが、なかなか後を絶ちません。ふんを踏んで、気分がよい人はいないですよ。公園は、皆さんに気持ち良く、楽しく利用していただく場所です。一人一人がルールやマナーを守る必要があります。「また来よう」と思える公園づくりに協力ください。